

赤いランドセル

赤いランドセルの
悲痛な叫び
「もう運転中に携帯電話をかけないで」



制作意図

交通事故を起こす要因の一つに「なにかに気を取られて」気付かないというのがあります。運転中の携帯電話の使用による事故はその顕著な例です。

私たちは安易な気持ちで運転中に携帯電話を使用していないでしょうか。

この作品は、安易な運転中の携帯電話の使用によって突然に我が子の命を奪われた両親の悲痛な姿を描き、ドライバーの方々に安全運転の重要性を再認識して頂く事を目的として制作しました。

あらすじ

路傍の供花が寂しげに風に吹かれています。

交通課事故捜査係の警察官である私は、これまで幾度となく交通事故の現場に立ち会ってきました。あの事故も。それは小学校の近くの交差点で起りました。学校帰りの少女が横断中に車に撥ねられたのです。ドライバーの運転中の携帯電話の使用による前方不注意が原因でした。

近所の人のお知らせを受けた両親は、私達交通課の捜査係よりも一足早く被害者の少女が収容されている病院に到着していました。私たちが救急室に入ってみると、少女はすでに亡くなっていました。立ち会った医師の話では即死とのことでした。しかも遺体は損傷が激しく、そのまま両親に見せたらどうなるだろう。思案した末、私は両親に少女の遺品で確認してもらうことにしました。遺品は少女の背負っていた赤いランドセル。ランドセルを目にした瞬間、お父さんは崩れ落ち、お母さんは大きく目を見開き、嗚咽を洩らして全身を震わせていました。それがわが子と認めた証でした。その悲痛な両親の姿を見て、私は死体見分を終えた遺体を綺麗に処置して欲しいと医師や看護師さんをお願いしました。遺体との対面はとても悲しく辛いものでした。お母さんは変わり果てたわが子にすぎり、顔や頭をさすりながら、語りかけ、泣き崩れていました。でもわが子はもう笑うことも、泣くこともありません。身動き一つもしません。

遺体は両親にしっかりと抱かれて引き取られていきました。

もし、加害者のドライバーが運転中に携帯電話を使用しなかったらこの悲劇は起こらなかったのです。それを思うと悔やまれてなりません。

少女の事故現場には今も花が供えられています。そして、あの加害者であるドライバーの償う姿も…

●企画・制作：(財)埼玉県交通安全協会

●キャスト

澤田 直子 (小3 8歳) 事故に遇う少女
澤田 重雄 (40歳) 直子の父
澤田 緑 (36歳) 直子の母
交通課の警察官 (40代)
その同僚警察官 (20代)
医師 (40代)
看護師 (40代)
看護師たち (20代)
事故を起こしたドライバー (30代)
直子のクラスの子たち
澤田家の親戚達

寺田 綾乃 東映アカデミー
関根 正明 俳協
矢治美由紀 俳協
青柳文太郎 俳協
斉藤 邦男 藤プロ
阿部 渡 俳協
小沢 幸代 俳協
中山 直美 藤プロ
湯田 宗登 藤プロ
東映アカデミー
藤プロダクション

●スタッフ

プロデューサー：篠原 修
監督：吉田 和義
脚本：新巻圭太郎
撮影：松丸 武彦
照明：田久保 剛
録音：渡辺 丈彦
V E：中村 正雄
音楽・効果：田辺 信道
編集：桑原 孝子
助監督：片岡 憲和
保母新之介
伊藤 有紀
照明助手：酒入 康之
制作担当：吉村 繁
ヘアメイク：高森 啓子
協力：大宮双愛病院

●お問い合わせ、お買い上げは…

(映) 有限会社 **博映商事**

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1丁目3番31-220号
TEL. (092)741-0306 (代表)
FAX. (092)741-6628